

## 教育における協同の探究

池田 考司（北海道／北海道立深川農業高校教諭）

### 1. はじめに

私は現在教育における協同の取り組みを学校と地域においていくつか行なっているところである。学校においては代表的なものとして市民・専門家との教育計画・教育実践の協同化、生徒の授業運営への意見表明の保障としての授業オンブズマン制度の実施をあげることができると思う。地域においては山下正寿氏の高知高校生ゼミナールをモデルにした深川地区高校生ゼミナールの活動をあげることができると思う。

これから、私の行なっている取り組みについて具体的に紹介してみることにしたい。

### 2. 〈強制連行・労働と国際友好について考える〉の取り組み

国民教育権論や民主的教師・教育論の弱点として教育権が教師の占有に流れやすいことを私は以前から教職員組合の会議等で指摘してきた。しかし、その思いをなかなか理解してもらえないという現実を前にして私が実践的にこの問題の指摘と克服の道を提起しようとしたのがこの取り組みである。1990全国教研でその最初の取り組みとして〈被爆者と教師でつくる平和教育〉を私は報告している。今回の〈強制連行・労働と国際友好について考える〉の取り組みはその第2弾となるものである。この〈強制連行・労働と国際友好について考える〉の取り組みは近隣の朱鞠内湖で強制労働で亡くなった朝鮮人・韓国人の遺骨とその歴史を掘りおこし、韓国の遺族へ届けてきた市民運動のリーダーの市内の僧侶と協同で教育計画と指導案・資料を作成し、彼の授業への講師としての参加も含めて実践を行なっていくというものである。現在は6月中旬の実践にむけて協同で計画を作成している段階であるが、私が知らなかった事

実や視点を提示され、教師だけで行なう教育の限界性を改めて痛感させられているところである。

また、この教育計画・教育実践の協同化については今年度だけでみても福祉関係者との協同の取り組み、被爆者との協同の取り組みを予定して準備を進めているところである。

### 3. 深川地区高校生ゼミナールの取り組み

深川地区高校生ゼミナールは昨年4月に結成されたばかりの集まりである。結成のきっかけは授業で従軍慰安婦問題の学習をしたことであった。それ以前にも私の核兵器や原爆についての授業等を受けてきていた女子生徒が従軍慰安婦問題の授業を受けて、すばらしい感想文を書いてきたのに触発され、彼女に高校生ゼミナールの取り組みについて紹介したところ、彼女がぜひやってみようという返事をしてきたことからこのゼミナールがスタートしたのだった。活動を始めるにあたってどんなことをしたいんだと私が尋ねたところ、彼女たちから返ってきた返事は「広島へ行きたい」というものであった。彼女たちはその後被爆者を招いての学習会等の取り組みを行ない、市内の人々に募金を呼びかけ、原水禁世界大会に参加してきたのだった。そして、広島から帰ってきた彼女たちが次に行なおうとしたのは前述した朱鞠内湖での強制労働で亡くなった人たちの遺骨を保管してある寺が老朽化し、こわされるかもしれないということに対して自ら募金を集め保存させる取り組みを行なうということだったのである。

広島へ行ってきた二人の女子生徒は今春卒業したが、現在彼女たちの後輩が朱鞠内湖に関しての募金活動と全国・全道の高校生との交流のための準備を着々と進めているところである。